

「人間を科学する」イリュージョンライブ

人間科学部 人間科学科1年 武田 千尋
白田 夏実

先日行われたオープンキャンパスや大学祭で、私たち人間科学部は、「イリュージョンライブinJindai」というイベントを開催しました。心理学の知覚・感覚の分野を使った実験で、心と体、人間の不思議を体験してもらうという企画を行い、イベント中、高校生だけでなく一般の方々にも様々なイリュージョンを体験してもらいました。

人間科学部は2006年度から設立された新設学部で、まだ馴染みのない学部です。そのため、このイリュージョンライブには、身近に存在する心理学を楽しく体験してもらい、わかりやすく説明していくだけでなく、新設学部のアピールもしていくこうという狙いがこめられていたので、参加したメンバーの力の入り方も並ではありませんでした。ちなみに、私た

ちの学部は2年次から「心理発達コース」、「人間社会コース」、「スポーツ健康コース」と3つのコースに分かれるのですが、今回のこのイリュージョンライブで行つたことは、「心理発達コース」の担当分野にあたります。大抵の人達が想像しているものとは少し違い、小難しい気がしてしまったのが実際の心理学です。ただ実験をするだけでは面白くありません。いかに楽しませるか、というのがひとつ目の課題であり、そのため色々な工夫を施しました。では、実際に私たちがこのイベントでどのようなことをしたのか、一部ですが紹介したいと思います。

まずはシャルパンティエの錯覚と呼ばれるものです。これは知覚心理学の中でも有名な、体積と重さに関する錯覚の実験のひとつです。今までいたので、参加したメンバーの力の入り方とも並んでおりませんでした。ちなみに、私た

マのぬいぐるみがあるとします。どちらが重いと思いますか、と聞かれたとき、大勢の人は大きいクマと答えます。しかし、実際に大きいクマから順に抱き上げてもらうと皆口をそろえて「小さいクマのほうが重い」と言います。しかし、このクマはどちらも全く同じ重さなのです。イリュージョンライブのときに体験に来てくれた人たちも皆驚いてくれました。ではなぜ、同じ重さのにも関わらず、小さいクマのほうが重く感じてしまったのでしょうか。答えは、私たちが日頃の経験から「体積と重量は比例している」と思い込んでしまうからです。大きなクマを持ったときの重さを基準にして、後から小さなクマを持ったので、小ささの割に、重いとい

うことで「小さいほうのクマが重い」と感じたのです。これは脳の思い込みによるものなので

す。「まさか嘘だろう」と思う人は次のイリュージョンライブに是非足を運んでみてください。思っている以上に違ひがはつきりわかることがあります。

そして次に、色についてです。同じ色を見続けてから白を見ると、そこに見続けていた色とは反対色の残像が見える、「色の残像」というものを体験してもらいたいその仕組みを説明したり、そのほか色彩心理学についての話をしたりしました。例えば、実は人は色に行動を左右されている場合があるということなどです。赤い部屋と青い部屋では体感温度が違いますし、同じ部屋でも暖色系の壁の方が広く見えます。ついでいい目が言ってしまう街頭の広告なども実は目を向けられるように様々な色彩の工夫がなされています。実は人間は周りの情報を集めるとき、80%以上も視覚によつて得ていると言われています。色の隠れた効果、知つていると色々なことに効率的に活かせると思いませんか。

以上述べた二つの実験のほかにも様々な実験を行いましたが、これらは主に目による錯覚です。入学したての何の知識もない私たちにとつてこの目や錯覚という分野は未知の世界であり、資料集めや制作などは非常に労力を費やしましたが、準備、実演などを通して、自分たち

の理解や関心が深まりました。そしてそれだけでなく、このイリュージョンライブでは、メンバーの皆や先生方とも、とてもよい人間関係を築くこともできました。あつという間にうちにかけられたのも人間科学部ならではなのかもしれません。そのことも含めて、イリュージョンライブに参加したことはとても意義深いものとなりました。

そして最後に、次にこのイリュージョンライブが行わるのはおそらく来年の初夏のオーブンキャンパスです。次回も残像効果、シャルパンティエ効果や色彩による錯覚をはじめ、様々なイリュージョンを開いていく予定です。そのときは今回に増して、さらに充実したものになるよう、新入生も加えたメンバー全員で、楽しく活動していくたらと思っています。体験してもらい、「面白かった」と言われるることは、私たちが活動する上で大変大きな励みになります。「面白かった」と言われるためにも、そしてなにより、オープンキャンパスや大学祭にきてくれる高校生のためにも、更にわかりやすくを提供し、人間科学部の魅力を感じてもらえるように努力していくこうと思います。これからも楽しくわかりやすいイリュージョンライブを期待してください。

「人間を科学する」ということ、少しは興味をもつていただけたでしょうか。

